ジンシャリ

盆美ニュース JINSHARI

さいたま市 大宮盆栽美術館 vol.41 2022.4

収蔵品紹介

真柏 銘「武甲」
（A-023）

盆栽界では高山に自生する低木の「ミヤマビャクシン」を真柏と呼び珍重し、数多の名品盆栽が生まれています。糸魚川の明星山、秩父の武甲山、両神山一帯が多くの名木を産出していますが、現在はほとんど採りつくされたと言われています。本作は、秩父地方で山採りされたことから、秩父を代表する名山・武甲山にちなんだ銘が付けられています。

正面から見ると幹が根元から裂けるようにして左右に広がり、枝先に向かって複雑な曲線を描いています。特徴的なのは左側に伸びた幹で、先端に至るまで白いジン、シャリと化し、迫力のある造形美を見せています。

このニュースレター「ジンシャリ」も創刊から41号を迎え、今回より掲載内容を刷新し、リニューアル第一号として発行します。新しいスタートとして、ジン、シャリが見事な本作を表紙の一枚に選びました。

推定樹齢　350年

「ジンシャリ」とは？

歳月を経た松柏盆栽は、幹や枝の一部が枯れて、そのままの形を残すことがあります。
枝は「ジン（神）」、幹の部分は「シャリ（舎利）」と呼ばれる、盆栽の見どころのひとつです。
ニュースレター「ジンシャリ」では、大宮盆栽美術館の見どころを紹介していきます。

春から初夏へ、木々の新たな一年がはじまります

春夏秋冬ー日本は、四季という自然に彩られた美しい国です。

自然に生きる木々の姿が、四季それぞれの美を湛え、私たちに尊い自然の美しさを伝えています。

大宮盆栽美術館は、生ある美術、盆栽の美しさを讃え、四季折々の姿を「季節の展示盆栽展〈四季〉」として来館者に伝えています。３席の座敷飾り、そして５席のモダンな席飾りからなる屋内展示では、週ごとに展示替えを行い、盆栽鑑賞のために設えた庭園では、松柏（常緑針葉樹）、雑木（広葉樹など）を織り交ぜて、常に60点ほどの盆栽を鑑賞することができます。

長い冬が終わり、新たな季節を迎えるこの時季、大宮盆栽美術館が贈る自然美の見どころをご紹介します。

４月、冬の堅いつぼみがふっくらと丸みを帯びはじめれば、大宮盆栽美術館には、一斉に春の息吹が立ち込めていきます。もみじやかえで、いわしでは、赤みを残した若葉を芽吹き、これに遅れて、松や真柏、杉などの常緑樹が鮮やかな新芽を芽吹きます。木々の新たな一年のはじまりです。

そして５月、薫風ただよう初夏のあたたかな日差しを受け、おおらかに広がる広葉樹の葉は、まだ淡い黄緑色で、透き通るような鮮やかな色彩が目に映ります。萌える緑とはまさにこの姿のこと。青空に映える爽快さを楽しめます。

迎える６月、しとしとと降る長雨に濡れそぼる木々は、夏の到来を静かに待つ、ひとときのしっとりとした姿を見せています。開いたばかりのみずみずしい葉に雨露を浮かべるアジサイの仲間「岩がらみ」、針葉の先に露を重ねた松の姿。梅雨という日本の特別な景観を、木々の姿が語ります。

木々の一年のはじまりから、夏の到来を待つひととき、それぞれの時季にしか見られない盆栽の美しさをお楽しみください。

（学芸員　田口文哉）

４月　もみじ（獅子頭）

５月　山もみじ

６月　岩がらみ

展覧会情報

〈コレクションギャラリー〉

■ 季節の展示　盆栽展〈四季〉

４月　芽吹きの季節
４月１日（金）～４月27日（水）

５月　新緑の誘い
４月29日（金祝）～５月25日（水）

６月　枝先のしずく
６月10日（金）～６月29日（水）

■ 企画展　さつき盆栽展

５月27日（金）～６月５日（日）

〈企画展示室〉

■ 歴史と文化
盆栽クロニクル（年代記）

４月16日（土）～６月29日（水）

「ジンシャリ」41号の発刊にあたって

開館２年目の2012年から10年にわたって刊行してきた季刊「ジンシャリ」も、今回で41号となりました。当館の展覧会や催し物をこの一誌に盛り込み、皆さまと当館をつなぐ大切な情報誌としての役割を果たしてきましたが、今後は当館の学芸員や盆栽技師の活動などもお伝えし、皆様により親しみをもっていただけるよう工夫していきたいと思います。

さて、当館は大宮盆栽村に培われてきた盆栽文化の振興を目的に設立されましたが、その盆栽村はまもなく開村100年を迎えます。盆栽は日本の伝統文化でありますが、今や世界各国で大変な人気で、盆栽村は盆栽文化の「聖地」として注目されています。当館は、この盆栽文化をさいたま市のこの地で守り育てていきたいと決意を新たにしております。コロナ禍の中でも、まもなく松や真柏の緑はより鮮やかになり、梅や桜はまばゆいばかりの花をつけます。皆様には、ぜひ来館し春の息吹を感じ取っていただければと思います。

（館長　老川慶喜）

盆栽だより

千代の松の剪定

当館で最大級の大きさ（高さ1.6m、幅1.8m）を誇る、五葉松 銘「千代の松」。開館から10年が経ち、向かって右側の下枝がだいぶ伸びてきました。針金をかけて枝を持ち上げることも考えましたが、全体のバランスをみると安定感が出ないということで、調和をとることを検討しました。

「盆栽は枝を切って魅力をさらにひき出す、引き算の美が必要。」という盆栽管理官・山田登美男の言葉のもと、大きな枝を２本剪定しました。剪定前後で写真を比べてください。伸びた下枝がなくなり、すっきりとした全体像が完成したのがわかります。

この「千代の松」は、盆栽庭園に常設展示しています。今回の剪定で切った枝の名残を留めたジンを枝先に作成していますので、鑑賞の際には剪定の様子を想像しながら探してみてください。

（学芸員　石田留美子）

①開館当初（2010年2月）の姿

②剪定前（2021年10月）

③剪定の様子

④ジンの作成

⑤剪定後の姿

大宮盆栽村100周年に向けて ～資料調査をスタート

大宮盆栽村は大正14年４月に東京の盆栽園・清水利太郎（清大園）が移住してきたのが始まりです。当館では、来る2025年の100周年に向けて大宮盆栽村に関する資料調査を開始しました。令和３年度は、大宮盆栽村の中でも古い書籍や資料を所蔵している九霞園の調査を実施しました。

九霞園所蔵の資料については、これまで断片的に知られてきましたが、その全貌は把握されてきませんでした。今回は九霞園３代目・村田行雄さんの協力のもとに、資料を１点ずつ確認しながら、可能なかぎり撮影を行いました。

調査の結果、九霞園初代村田久造氏（1902～1991）に関する新たな資料が次々に見つかりました。そのうちのひとつに、久造氏が故郷の岐阜県高山から上京して入学した「慶応義塾普通部」の「四学年生」時（大正８年）の通信簿があります。ここから久造氏の「四学年生」時の学年成績が141人中１番であったことが判明しました。これには３代目の行雄さんも大変驚かれていました。

久造氏は、昭和初年に川口の刃物製造業者である川澄昌国氏とともに盆栽道具の開発を行い、盆栽道具に関する特許を取得するなど、多才な盆栽家として知られています。盆栽界に刻まれた久造氏の功績は数多くありますが、この学生時代の成績を見ればそれも納得できるかもしれません。

また、久造氏は非常に筆まめな人物で、数年にわたる日記が残されています。このほかに寄稿や講演などの草稿、手紙や各種書類なども大切に保管していたようです。これらの貴重な資料の中には、昭和初年の大宮盆栽村の様子がうかがえる資料も残されています。今後、資料の解読作業を進め、展示等で紹介していきたいと思います。

（学芸員　林 進一郎）

九霞園資料調査の様子

盆美の普及事業 ～ボランティア活動を紹介します

当館は「盆美」という愛称で呼ばれています。このニュースレターの表紙にも「盆美ニュース」と書いてあるのですが、皆さんお気づきでしょうか？ぜひ皆さんも「ぼんび」と呼んでください。

さて、盆美では、各種講座や学校との連携、イベントなど盆栽文化の普及を目的とした様々な事業に取り組んでいます。今号では、こうした普及事業のなかでもガイドを中心としたボランティア活動についてご紹介します。

令和３年度のボランティア活動では、メインとなるガイドができない状況から、ガイド内容の充実を図るための自主研修グループを立ち上げ、代表的な盆栽の解説資料をまとめました。ミーティングや定例研修もオンライン開催となり、ボランティアは皆でデジタルに強くなった一年でした。たくさん自主研修ができた分、その成果を皆さんに披露できる日が来るのを楽しみにしています。

次号以降は、これまでに実施した学校と連携した授業や、イベントの様子を紹介します。

（学芸員　石田留美子）

オンライン研修の様子

自宅で育てている五葉松を紹介

イベントスケジュール 2022
event schedule

… 休館日

4 April

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 ST	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16 ST
17 子ども WS	18	19	20	21	22	23 実技
24	25	26	27	28	29	30

5 May

日	月	火	水	木	金	土
1 ST	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15 子ども WS	16	17	18	19	20	21 ST
22	23	24	25	26	27	28 実技
29	30	31				

6 June

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5 ST	6 燻蒸のため休館	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18 ST
19 子ども WS	20	21	22	23	24	25 実技
26	27	28	29	30		

展覧会

〈コレクションギャラリー〉

季節の展示　盆栽展＜四季＞	4/ 1（金）▶ 5/25（水）
さつき盆栽展	5/27（金）▶ 6/ 5（日）
季節の展示　盆栽展＜四季＞	6/10（金）▶ 6/29（水）

〈企画展示室〉

盆栽クロニクル	4/16（土）▶ 6/29（水）

定例イベント

ST	スライドトーク	13：30 ～
子ども	子ども向けワークショップ	10：00 ～ 11：30 ※
WS	盆栽ワークショップ	14：00 ～ 15：30 ※
実技	盆栽実技	13：30 ～ 14：30

※は要事前申込み

開館時間　3月～10月　午前9時～午後4時30分
11月～2月　午前9時～午後4時
（入館は30分前まで）

休館日　木曜日（祝日をのぞく）、年末年始、臨時休館日あり

観覧料

一　般	310円（200円）
高大生・65歳以上	150円（100円）
小中学生	100円（50円）

＊障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方一名は半額
＊（　）内は20名以上の団体料金

年間パスポート好評発売中！
一般 1,040円／高大生・65歳以上 520円／小中生 310円

発　行　さいたま市大宮盆栽美術館

電車利用　JR宇都宮線「土呂駅」下車　東口より徒歩5分
東武アーバンパークライン（野田線）
「大宮公園駅」下車　徒歩10分

車利用　首都高速埼玉新都心線「新都心西」出口より約6km
東北自動車道「岩槻」出口より約9km
駐車場：一般車両39台（2時間まで無料）
大型車3台（880円）、障害者用2台（無料）

〒331－0804
埼玉県さいたま市北区土呂町2－24－3
TEL 048-780-2091　FAX 048-668-2323
https://www.bonsai-art-museum.jp
〔ホームページ〕

さいたま市
大宮盆栽美術館
Bonsai Art Museum

このリーフレットは17,000部作成し、1部当たりの印刷経費は15円です。